

学習1 季節の文章を読む準備

考え方と確認例

作品と作者を知る

『枕草子』は、平安時代の清少納言による随筆です。自然や暮らしの中で心が動いたことを、鋭い観察で書きとめています。物語の事件だけを追う読み方とは少し違い、何に注目し、どう感じたかを結び付けることが大切です。

短い書き出しの働き

「春は、あけぼの」のように、季節と時を短く示す書き出しに注目しましょう。その後には、その時がよいと感じられる具体的な景色が続きます。初めの一語だけを暗記するのではなく、季節→時→景色や動き→感じ方の順で整理します。

読み方を直す問題

歴史的仮名遣いでは「けふ→きょう」「こゑ→こえ」のように、現代と異なる表記があります。「意味」と「現代仮名遣い」を混同しないように、設問の指示を先に確認します。漢字の読みも、ひらがなで答える指定なら現代仮名遣いで書きます。

古語は現代の印象だけで決めない

「をかし」は、この作品では趣がある・心を引かれるという方向の評価です。「あはれなり」はしみじみ心が動く感じを表します。現在の「おかしい」「かわいそう」と同じにしないで、何を見聞きしている場面かを確かめましょう。

省略を必要なだけ補う

短い文には「よい」「趣がある」などの評価が省かれることがあります。後続の描写や評価語とつなげ、自然な現代語にします。ただし、作者が実際にその日にその場にいたと決め付けたり、書かれていない感情を足したりはしません。

学習2 見えるもの・聞こえるものを整理する

考え方と確認例

描写を具体的にメモする

景色を読む時は、色・明るさ・数・動き・距離に分けて短くメモすると、違いが見えます。例えば「赤い葉が一枚落ちる」という作例なら、色は赤、数は一枚、動きは落ちる、です。本文にない項目は空欄のままでかまいません。

何が動いているかを確かめる

主語が省かれた文では、直前の名詞と動作の関係を考えます。鳥が列をなすのか、雲がたなびくのかなど、対象を先に押さえます。「小さく見える」は見た人からの見え方であり、必ずしも対象そのものが小型だという意味ではありません。

視点の移り変わりをたどる

同じ段落の中でも、目で見える景色から耳で聞く音へ、遠い空から身近な暮らしへと、注目するものが変わります。変化の前後を分けて読むと、場面の広がりをつかめます。どちらも説明に必要な問題では、一方だけで終わらせないようにします。

「も」「さへ」が広げる範囲

「～も」は別のものを加え、「～さへ」はそこまで含める意外さを表すことがあります。「有名な景色だけがよい」と決めず、作者がさらに取り上げた景色を確認します。いくつも挙げられている時は、共通点と違いを分けて整理しましょう。

強める言葉と評価の向き

「いと」などは後の言葉の程度を強めます。一方、よいと感じる語と、よくないと感じる語は、評価の向きが違います。文章全体が自然をほめているように見えても、最後まで読み、評価が変わるところを見落とさないでください。

学習3 比較と記述の基本

考え方と確認例

指示語の中身を戻して読む

「そうでなくても」の「そう」のような指示内容は、直前だけでなく、同じまとまりの前の部分にもさかのぼって探します。候補を実際に当てはめて、後の文につながるか確かめます。一語だけでなく、二つの場面をまとめて受ける場合もあります。

比較は同じ観点で

二つの場面を比較する時は、明るさなら明るさ、動きなら動きというように観点をそろえます。「一方はたくさん、もう一方は少し」のように対を作ると明確です。片方だけを詳しく書いて、もう一方の説明を忘れないようにしましょう。

根拠を加える説明

作者の見方を説明する問題では、「自然が好き」などの広い感想で終えず、どの景色をどう評価しているかを書きます。必要な場合は本文の語句を短く引用しますが、丸写しだけにせず、読み取った内容を自分の言葉でつなぎます。

訳すときの点検

現代語訳では、動作や景色だけでなく、否定、程度、理由、評価も保ちます。「～にあらず」のような形が出て、慣用的なまとまりで意味を取る場合があります。一語ずつ置き換えた後、文全体として自然であるか読み直しましょう。

この教材の取り組み方

Aは春・夏の基本、Bは秋の視点、Cは冬の評価の変化を練習し、Dで四季をまとめて確認します。Dは8問100点です。解答後に全文訳と照らし、間違えたところを「語句」「対象」「評価」「比較」のどれに当たるか分けると復習しやすくなります。

資料と使い方

出典と表記について

本文・訳・設問について

古典原文は保護期間満了の作品を使用。現代語訳・語注・学習の手引き・設問・解答解説は本教材のために独自作成。

中学2年生が、語注や文脈を手掛かりに古文を読むための教材です。学校や教科書によって扱う作品や順序は異なります。

字数は句読点・かぎカッコ・小さい仮名も各1字と数えます。抜き出しは本文の表記どおりに書き、指定がない限り前後の句読点・かぎカッコは含めません。確認テストの各問の得点は0点を下限とし、空欄は0点です。

BUNGO-bun GO! 「春はあけぼの」 古典原文

<https://bungobungo.jp/text/hakbn/>

掲載教材の開発者・研究助成情報

<https://bungobungo.jp/about.html>

出典確認日 2026年10月10日。出典の現代語訳・解説・設問の転載ではありません。